2　南薩地域の茶業経営の安定とブランド化による稼ぐ力の向上

成果の要約

1　各市技連会と連携して良質茶生産に向けた生産技術を指導した。粗収益は，てん茶，有機栽培茶やドリンク茶の需要が高く，近年にない高単価で取引され，昨年を大きく上回った。
2　地区管理ごよみ（米国輸出対応）や適用農薬一覧表を改訂し，座談会等で配布・説明した。また，茶の輸出状況等も情報提供し，輸出茶生産体制の強化を図った。
3　有機栽培技術実証に取り組み，地温の低い時期の施肥を早めることで，一番茶品質がやや向上する傾向がみられた。
4　県茶品評会で南九州市が産地賞と農林水産大臣賞を獲得し，地域の銘柄確立と技術の高位平準化が図られた。

1　対象

（1）南薩地区茶業振興会 137 工場
（2）各市茶業振興会 631 戸

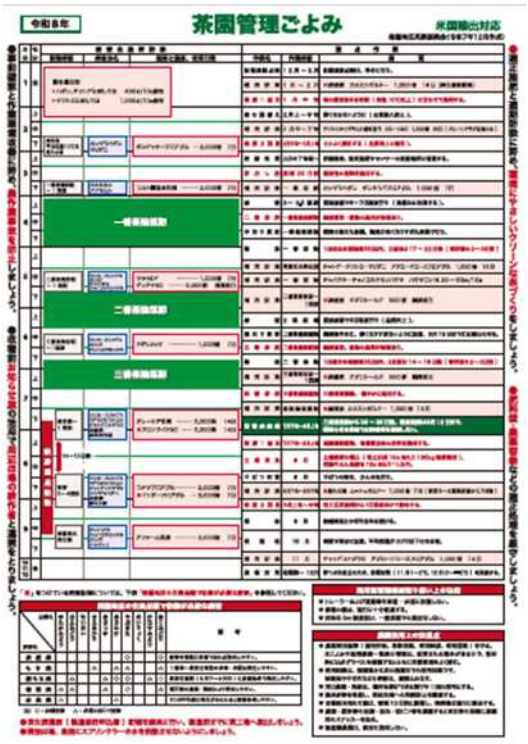
2　課題を取り上げた理由

（1）担い手・労働力不足などに対応するため，スマート農業技術の導入や GAP 実践による経営体質の強化が必要である。
（2）茶価の低迷や資材の高騰などに対応するため，輸出茶の生産体制強化やてん茶，有機栽培茶の生産拡大を図る必要がある。
（3）消費拡大・ブランド力向上のため，出品茶への取組による銘柄確立，仕上げ茶の品質向上，多様な茶種への取組を強化する必要がある。

3　活動の内容及び成果

（1）茶経営体の育成
ア　アプリ活用によるＧＡＰ取組支援強化
　生産履歴システム「茶れきくん」と営農支援アプリ「アグリノート」の連携システムを昨年導入支援した茶経営体の活用状況を確認した。アプリの操作にも慣れ生産履歴記帳等も活用されていた。
イ　荒茶の品質・収量向上に向けた生産技術指導
　各市の技連会と連携し，土づくりや整枝，防除等の茶園管理技術を指導し，茶時期は適期摘採，生葉取扱や品質を落とさない荒茶製造を指導した。
　今年は，てん茶，有機栽培茶やドリンク茶等の需要が高く，近年にない高単価で取引され，夏茶以降は品質による価格差も小さい傾向で，粗収益は昨年を大きく上回った。

（2）輸出茶生産体制の強化
　地区茶園管理ごよみ（米国輸出対応），適用農薬一覧表を改訂し，座談会で配布・説明した。茶の輸出状況等も情報提供し，輸出茶生産体制の強化を図った。
　また，輸出茶生産に取り組むため，かごしま茶サプライチェーンに登録を希望する茶工場もあり，登録を支援した。



（3）有機栽培茶の生産拡大
ア　有機栽培の肥培管理の検討
　一番茶の品質収量向上を目的に，地温の低い春肥や芽出し肥の施用時期を早めに行い，その施用効果を検討した。３月頃まで

無機態窒素量がやや高く推移し，一番茶品質はやや優れる傾向であったが，一番茶の増収効果はみられなかった。

イ　除草実態・対策調査

有機栽培での除草作業の実態を調査したところ，株下の除草の他，作業者の雇用や熱中症対策が課題であった。求人方法の検討や，作業管理体制の見直しが必要である。

ウ　二番茶後更新方法の検討

てん茶生産は長期間被覆するため，一・二番茶の摘採時期が遅くなり，二番茶後の更新を行うと秋芽生育期間が十分に確保できず，翌年の茶生産に悪影響を及ぼす懸念があることから，実証ほを設置し，検討を始めた（写真１）。



写真１　茶園調査

（４）消費拡大・ブランド力向上

ア　産地賞受賞によるブランド化

茶園管理や摘採製造指導などに取り組み，令和７年は全国茶品評会，県茶品評会に管内から 39 点出品した。

全国茶品評会での産地賞や農林水産大臣賞は獲得できなかったが，県茶品評会では，南九州市が産地賞，農林水産大臣賞を獲得し，枕崎市，南さつま市が出品した茶も全て入賞した（写真２）。



写真２　茶品評会摘採指導

イ　仕上げ茶の品質向上と消費拡大支援

知覧茶の品質向上を図るため，流通部会での品質改善指導を行い，消費者に好まれる仕上げ茶の生産・製品の保管方法等を確認した（写真３）。



写真３　流通部会での仕上茶審査

また，消費拡大に向けて，お茶入れ教室や知覧茶アンバサダー講座での支援を実施した（写真４）。



写真４　知覧茶アンバサダー講座

４　今後の課題

（１）連携システムが経営改善につながる活用支援。

（２）有機栽培やてん茶の安定した品質・収量を確保するための茶園管理技術等の検討

（３）良質茶生産技術の習得と仕上げ茶の品質向上によるブランド確立

５　担当した普及職員（〇はチーフ）

〇上園，串﨑，當，竹之内，（元山）